



# 広報えびちゅ

発行/YEBISU LLC広報部 本社/〒412-0021 静岡県御殿場市二枚橋312-1

July 2018

YEBISU LLC PRESENTS [www.yebisu.org](http://www.yebisu.org)

## 募集

- 校閲ガール
  - イケてるカメラマン
  - 新進気鋭のDTPオペレーター
- 詳しくはHPをご覧ください。



# みんなに聞いてみました。ご先祖様はどっから来た？ 苗字はどっから？



### 奥州岩代の満田さん

室町時代のご先祖様が合戦で手柄を立て、そのご褒美に奥州岩代河沼郡(会津坂下町・湯川村・柳津町あたり)の中にある村を三つもらったということです。その中の村の一つが満田村です。そこから苗字として名乗ったようです。

父方の祖父の実家は会津若松市のとなりの猪苗代町ですが、その周辺には満田姓があります。会津も猪苗代も、空と磐梯山が大きく見える美しいところです。

行盛(市川掃部允) — 行径(戸栗甚十郎、住河内南部郷戸栗)

とあります。市川掃部允行盛は、武田一族なのに武田氏を裏切ったことで有名な穴山梅雪の家臣市川掃部助のことのようです。我が家の家系図の数代前に「市川」の姓が出てくるのは、この市川と関係があるのかこれから時間を掛けて調べてみたいと思いました。



### 南部町の戸栗さん

新清水インターチェンジから、身延道と呼ばれる国道五二号線を北上します。身延道は、甲斐と駿河を結び、日蓮宗の総本山身延山久遠寺へ向かう街道です。JR身延線、富士川に沿って走ると南部町に入ります。

さらに進み富士川の支流戸栗川をまたぐと戸栗姓が多くなる地域です。

甲斐源氏系譜所収の市川氏の系図の中に



戸栗川上流



### 川村関所の関さん

東海道の箱根の関所は、江戸を守るための大切なセキユリティールチェックの場所です。その箱根をすり抜けて行くのを防ぐために、脇往還(バイパス)にも関所が作られました。その一つが山北町山



北にある川村関所です。県道七六号線(国道二四六号線の旧道)の安戸隧道の松田側に川村関所跡の説明板があります。

祖父の実家があるのは、ここから皆瀬川を挟んだ北東側の萩原という地区です。この周辺には「関」の苗字の家があります。江戸時代の山北は、地震や噴火が元で大水害が起こり、川の流れをかえる工事や用水路の整備で大変苦労したと聞きます。「関」の字は「水をせき止める所」の意味もあるそうなのでそこから「関」という苗字にしたのか、それとも関所があったから「関」なのか。また小山町



安戸隧道



酒匂川

生土でテラーをしてきた祖父は何がきっかけで山北から小山に移ったのかなど、知りたいことが沢山あります。

## みんなの苗字は

### 佐藤さん

祖父の実家は、山北町の旧三保村です。富士紡で働くことになったので、山北町から小山町に出て来て住むようになった。祖母とは富士紡で知り合ったそうです。

### 長田さん

板妻のお墓は家から歩いて5分。9割以上が「長田家」の墓です。「板妻の長田は静岡市から、東山の長田は山梨から移り住んだ」と聞いていますが、家系図を見せてもらったら江戸時代の終わりからずーっと板妻でした。いつ、静岡から来たのかな。

### 込山さん

山梨が拠点だった武田信玄の家臣のご先祖様で、本家にはそれを証明するような掛軸があるそうです。祖母が立派だったと言っていたので、いつか見てみたいです。

### 小松さん

茅野市にある父の実家の小松家では、平氏の出自ということをお忘れないうちに、代々、男の子の名前に必ず「平」の字を入れます。

### 府川さん

相模国足柄下郡府川(小田原市荻窪)がルーツで、小田原と平塚に多い苗字だそうです。

### 勝俣さん

印野に住んだ「勝間田」の分かれが「勝俣、勝又、勝亦」で、「勝俣」は一色に住んで約四〇〇年近く経つらしいよ。一色の「勝俣」は大きく言う「あきらさんち」と「こうや」と、うち。この三軒に分かれて、あきらさんちは久成寺、こうやうちは大乗寺だよ。



# 勝間田姓の長い旅

牧之原の勝間田一族が御殿場を目指して五四二年。エビスのDTPオペレーター勝間田S氏、営業勝侯K氏は言います。「それが俺らのルーツなんだよ。」



牧之原市勝間田にある勝間田城跡。標高一三二メートルの山の頂にあった主郭には、今は社が祀られています。



牧之原 勝間田MAP

## 遠江国榛原郡(牧之原市)

勝間田氏は、平安時代末期から室町時代中期の約三四〇年間、この地を治めていた豪族です。当時は勝田と書いて「かつまた」と読んでいました。鎌倉時代、幕府の御家人となり、元弘の乱では赤坂城、千早城の攻撃・守備の両方に参戦。一方、全三十六巻にも及ぶ和歌集「夫木和歌抄」を編さんするなど、一族は文武両道の大活躍です。室町時代に入っても足利將軍の直屬軍として、応永の乱や永享の乱で犠牲を払いつながりも活躍しました。しかし、一四六七年に始まり十一年間も続いた国内最悪の内戦応仁の乱で、おとなり駿河国からここ遠江国に侵攻してきた今川義忠の軍勢に、城を落とされてしまいます。一四七六年のことでした。

## 富士山を目指して

落城す前に外へ逃がされた姫や子供たち、生き残った勝間田一族の人たちは四散しながらも富士山を目指して逃げ進みます。一部の人はいったん留まった今里村(裾野市)にそのまま住み続け、それ以外の人たちは、印野村の北畑地区に住み始めました。御殿場の「かつまた」のはじまりです。落城から百年以上経った江戸時代の初めのことです。

## 勝侯、勝又、勝亦

今も御殿場には印野を中心に大勢の勝間田さんがいますが、勝間田さん以外に様々なかつまたさんがいます。何種類もの「かつまた」があるのは、分家の際に文字を変えていったという説。もう一つは、残党狩りから逃れるために字を変えたという説です。「侯」は「分かれ道」、「又」は「再び」、「亦」は「跡」の字から「跡を残す」。分かれてしまったがまた再び、という切ない意味が込められています。

## 牧之原以前の勝間田

牧之原以前の勝間田一族のルーツが美作国勝田郡にあるとする説があります。岡山県勝田郡勝央町勝間田地区。ここには古代より江戸時代に栄えた出雲街道勝間田宿があり、宿場から北へ約1kmのところに坂田金時(金太郎)を祀る栗柄神社があります。

## 金太郎と勝間田と

坂田金時は九五六年に小山町で生まれ二十一歳で源頼光の四天王の一人として京へ上り、各地の賊を倒し活躍した人です。金太郎は訪れた村々で、富士山と故郷の話をするのが好きでした。賊を成敗する旅の途中に勝間田郡で亡くなった金太郎。その縁を感じた勝間田の人々。金太郎が育ったあこがれの富士山を目指し、牧之原へ移り住んだことがはじまりと言われています。

## 編集後記

●現代の戸籍は「夫婦とその子供」が一単位。戸籍も核家族です。昔の戸籍は、ひとつの家に住んでいれば、戸主の祖父や父母、兄弟、その連れ合い、その子供…何世代でも一つの戸籍に入れます。昔は戸籍も大家族でした。  
 ●家系図を眺めると、昔は家(子孫)を絶やさないことが最重要課題だったことがわかります。

●ご先祖様の中には、自分とどこかが似ている人がいます。「代々丸顔なんだね」「先祖も食い意地張っていたみたいね」と納得したり諦めがいたりします。

●温暖な牧之原から印野へ。追手から身を隠し、寒さに凍えながら生き延びた人たちのお陰で、御殿場市はかつまた大国になりました。時代を経てきた大勢のかつまたさん、これからも元気で活躍ください。

●これから調べたいエビスのおなまえが沢山ありますが、まずはこのチラシのためにお家の方に話を聞いたり、謄本を取り寄せたりした社員の皆さん、ありがとうございます。

●エビスHPにて、おまけ編「勝間田城址」と「金太郎終えんの地」を紹介いたします。よかったらご覧ください。

## 岡山県

## 勝間田MAP



編集下